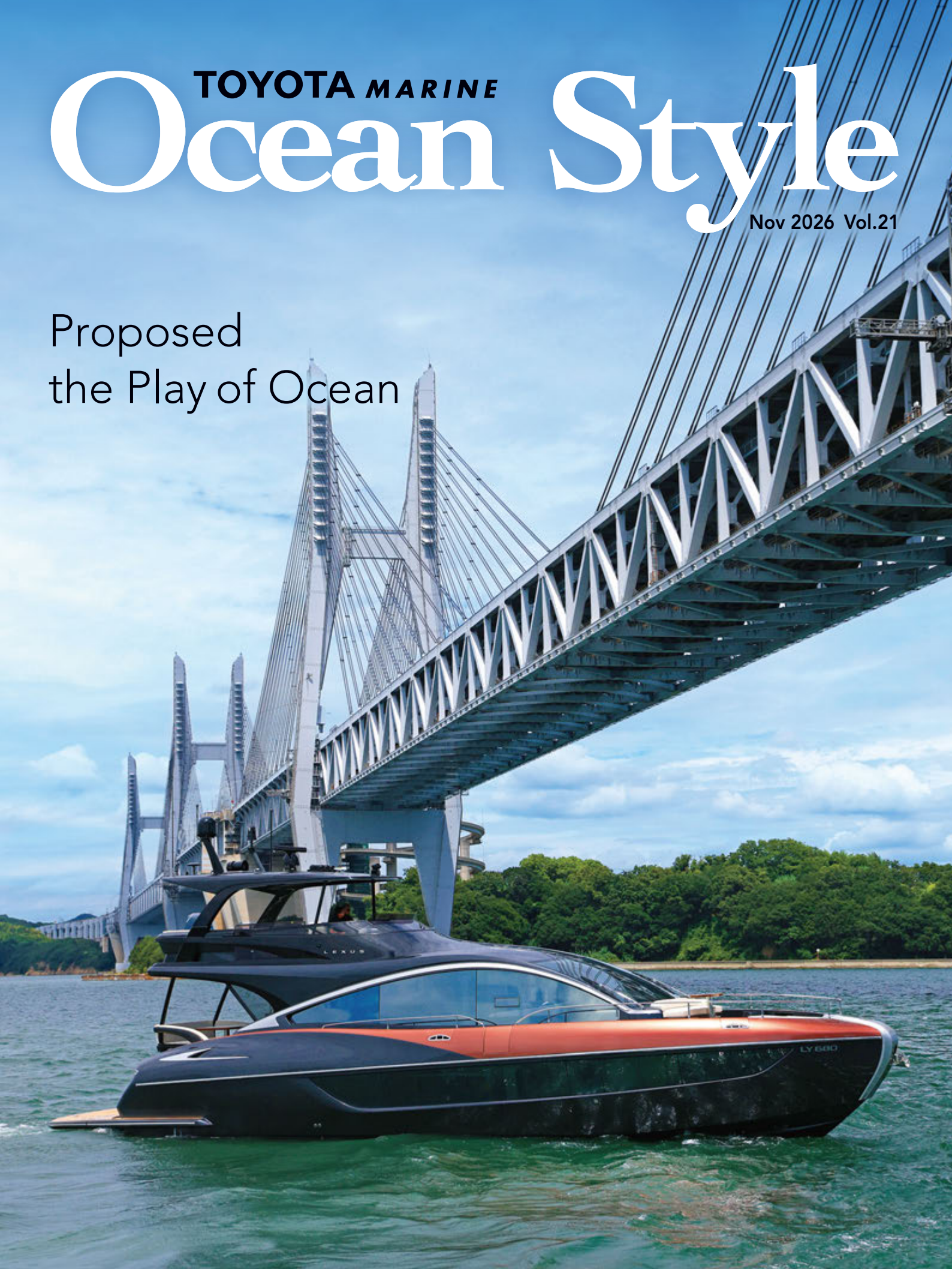
TOYOTA MARINE

Ocean Style

Nov 2026 Vol.21

Proposed the Play of Ocean



GOOD DESIGN AWARD 2026

「トヨタホームエスト成城」がグッドデザイン賞を受賞しました。

トヨタホームの叡智を結集させた、都市型邸宅。

土地の選定からこだわり、その土地の性質を見極め、
既成概念にとらわれることなく、個性を追求する。
「ただ一度しか出会えないような邸宅をつくる」
この思想を基に、一邸一邸、独創的なプランニングを創造。

高水準の鉄骨構造体、85%を自社工場で組み立てるトヨタ生産方式の高品質な建物、
そして、まちづくりまでを妥協することなくこだわり尽くした、至高の邸宅をここに。

トヨタホームの最高峰・都市型新築分譲邸宅
「TOYOTA HOME EST」。

トヨタホームエスト成城の街並み

TOYOTA HOME

TOYOTA HOME EST　トヨタホームエスト　検索

※写真は施工例です

トヨタホームエストに関するお問い合せは
右記へご連絡ください。

トヨタホーム東京株式会社 分譲住宅 第一営業部
所在地：〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-18 フリーコール：0120-872-161

TOYOTA HOME EST

TOYOTA MARINE

Ocean Style

Proposed the Play of Ocean

Proposed the Play of Ocean

TOYOTA MARINE Ocean Style

— Nov 2026 Vol.21 —



移動そのものを、特別な体験へ
LEXUSが描く、陸・海・空のモビリティ 08



2026 HORIZON OPEN HOUSE
Kaohsiung Taiwan,4-6 March 2026 14



LY680 OWNER INTERVIEW 20



JIDA Design Museum Selection Vol.27
LY680とCROWN（セダン）が選定 21



LY680 IMPRESSION 22



ジャパンインターナショナル
ボートショー2026 JAPAN BOATSHOW2026 INTERNATIONAL 28



「TM-CAST」にスマホ操船の機能を追加
手元から広がる、新しい操船スタイル TM-CAST 32



安全航行と操船技術の習熟を図る一日
トヨタマリン航行訓練&海上安全祈願開催 34



穏やかな海を巡り、志摩の恵みに出会う
PONAM-35sv 英虞湾クルージング 36



PONAM-31Ⅱ IMPRESSION 40



海の上でこそ分かる船の個性
ボートショーで楽しむ試乗体験 44



SHOP DIVIDE VOL.2 BOAT CENTER NISHIKINOHAMA
ショップ探訪 ボートセンター二色の浜 46

PONAM LINE UP ポーナムラインナップインフォメーション 48

SeaSucker

載せたいアイテムを思いのままに。

SeaSucker 製品は強力な真空マウントが使用され、
特別な加工なしで、様々なアイテムが取り付け可能です。
脱着はほんの数秒。
是非 SeaSucker のある世界をご体感ください。



SeaSucker

株式会社リガーマリンエンジニアリング
三重県いなべ市大安町南金井1732番地
TEL:0594-87-0200　FAX：0594-87-0300
シーサッカージャパン

SeaSucker.jp 公式　Instagram　電子カタログ

移動そのものを、特別な体験へ

LEXUSが描く、陸・海・空のモビリティ

目的地へ向かうための時間を、単なる移動で終わらせない。LEXUSは「DISCOVER」というブランドメッセージのもと、クルマを中心に、海ではLY680、そして空ではLEXUS Helicopterへとモビリティの領域を広げている。陸・海・空をつなぐ360度のモビリティによって、移動する時間そのものにも新たな価値が生まれる。フィールドが変わっても、その根底にあるのは乗る人の心を満たすひとときを生み出すという考え方だ。陸ではLM、海ではLY680、そして空ではLEXUS Helicopter。それぞれを通して、LEXUSが描くこれからのラグジュアリーな移動のかたちを見ていく。

目的地へ向かう移動にも価値を

目的地へ向かう時間の過ごし方は人それぞれだ。静かに過ごしたいときもあれば、窓の外に広がる景色を楽しみたいとき、あるいは大切な人と会話を交わしながら向かうこともある。LEXUSが提案するモビリティはそうした道中の過ごし方まで含めて考えられている。LMでは洗練された車内から景色を眺め、大切な人と会話を交わしながら、心地よく目的地へ向かうことができる。LY680では海を進みながら移り変わる景色を楽しみ、家族やゲストと海上でゆったりとした時間を過ごす。そして今年8月、その考え方は空へと広がった。新たに登場したLEXUS Helicopterである。地上から離れ、上空へと舞台を移した瞬間、見える景色も、そこで過ごす時間も全て変わっていく。目的地までの距離を短時間で結ぶというヘリコプター本来の機能に加え、洗練されたキャビンから眼下に広がる街並みや山々、海岸線を眺めながら目的地へ向かうこと自体が、ひとつの体験となる。陸、海、空。それぞれのフィールドにはそこでしか味わえない景色と過ごし方がある。LEXUSが描いているのは単なる移動手段の拡張ではない。目的地だけでなく、そこへ向かう過程にも豊かさをもたらすこと。モビリティの領域を陸・海・空へと広げながら、新しいラグジュアリーのかたちを提案しているのである。



海のフラッグシップヨットLY680。快適な居住空間と高い走行性能を備え、海上で過ごす時間そのものを豊かにする。



陸のモビリティを担う「ラグジュアリームーバー」LM。ゆとりある後席空間と高い静粛性によって、移動中も心地よく過ごせる空間を追求している。



LEXUSが新たに展開する空のモビリティLEXUS Helicopter。都市とリゾートなどをダイレクトに結び、空ならではの移動体験を提案する。

陸の移動を、くつろぎの時間へ

陸の移動を担うLMは目的地へ向かうまでの時間を豊かに過ごすための「ラグジュアリームーバー」として生まれた。静かに景色を眺めたり、会話を楽しんだり、ときには何もせず身体を休めたり。LMが目指しているのはそうした一人ひとりの過ごし方を受け止める移動空間である。ゆとりある後席空間に加え、乗り心地や静粛性にも磨きをかけることで、車内は単に目的地へ向かうための場所ではなく、周囲の喧騒から離れて自分らしく過ごせる場所となる。LEXUSがLMに掲げたコンセプトは「素に戻れる移動空間」。街中を走っている時間さえも、心身を整え、次の目的地へ向かうためのひとときへと変えていく。自宅やホテルを出発し、海や空へと続く次のモビリティへ向かう。LEXUSが描く陸・海・空の移動において、LMはその始まりを担う存在でもある。目的地に到着してから特別な時間が始まるのではない。ドアを閉めたその瞬間から、すでにLEXUSの体験は始まっている。

海へ広がる、LEXUSの世界観

陸から海へ。LEXUSがモビリティの世界観を広げるなかで、海上でその役割を担うのがフラッグシップヨットLY680である。LY680は単に目的地へ向かうためだけの船ではない。海を進みながら景色を眺め、家族やゲストと過ごし、ときには静かに自分だけの時間を楽しむ。移動と船上での滞在をひと続きにすることで、海にいる時間そのものを豊かなものへと変えていく。周囲に広がる水平線や、刻々と表情を変える海。その景色を身近に感じながら過ごせることも、海のモビリティならではの魅力だ。最新のテクノロジーと匠の技を融合し、細部にまでこだわるLEXUSの「CRAFTED」という思想を具現化したLY680。LEXUSがクルマで追求してきた体験価値はフィールドを海へ移しても変わることはない。そして陸から海へ広がったLEXUSの世界観はさらにその先へ。次なる舞台は空である。

陸のモビリティ
お問い合わせは
こちらから



静粛性と乗り心地を高い次元で両立するLM。
市街地から高速道路まで、滑らかで落ち着いた走りを実現している。

海のモビリティ
お問い合わせは
こちらから



LEXUSのフラッグシップヨットLY680。
力強い走りと上質な居住空間を兼ね備え、海上での移動と滞在を高い次元で両立している。


1


2


3

1. リヤ席前方には48インチ大型ワイドディスプレイを備えたパーティションを配置。画面は1画面表示のほか、左右で異なるコンテンツを楽しめる2画面表示にも対応する。**2.** L-ANILINE本革を採用したリヤシート。オットマン付きパワーシートや大型ヘッドレストを備え、ゆったりと身体を預けられる。**3.** パーティション中央下部には冷蔵庫を装備。750mlボトル3本、または500mlペットボトル6本を収納でき、後席から取り出しやすい位置に配置されている。


4


5


6

4. フライブリッジにはウェットバーを備え、海風を感じながらゆったりと過ごせる。**5.** 明るく開放的なメインサロン。床やテーブル支柱など、随所にLEXUSの「L」をモチーフとしたデザインが取り入れられている。**6.** 上質な居住性を備えたマスターステートルーム。ゆとりあるベッドを中心に、落ち着いて過ごせるプライベート空間に仕上げられている。

空へ広がる、LEXUSの新たな移動体験

クルマを中心に培ってきたLEXUSのモビリティはLY680によって海へ、そしていま、新たに空へと広がった。LEXUSは空の移動を担う新たなモビリティとしてLEXUS Helicopterを発表。ヘリコプターがもたらす大きな価値のひとつは地上の道路やルートにとらわれず、都市からリゾートへとダイレクトに移動できることにある。これまで多くの時間を要していた場所も、空から結ぶことで距離の感じ方そのものが変わっていく。移動時間を短縮できることはもちろん、その先で過ごせる時間をより長く確保できることも大きな魅力だ。そして、空を移動する体験にはヘリコプター特有の魅力もある。機体が垂直に浮かび上がると、わずかな時間で地上の景色が遠ざかっていく。高度を上げるにつれて視界は大きく開け、街や海、山々を地上とは異なる距離感で捉えることができる。目的地へ向かう間も、刻々と変わる高度や眺望を楽しめることはクルマやヨットにはない空のモビリティだからこそ味わえる醍醐味である。クルマからヨットへ、そしてヘリコプターへ。LEXUSはいま、ブランドが提案するモビリティの領域を陸・海・空へと広げている。そこに共通するのは目的地へ到着することだけに価値を置かない考え方だ。乗り込んでから降りるまで、モビリティのなかで、どのように過ごすのか。その一連の時間まで含めて、LEXUSならではの体験を形づくっている。

空のモビリティ
お問い合わせは
こちらから

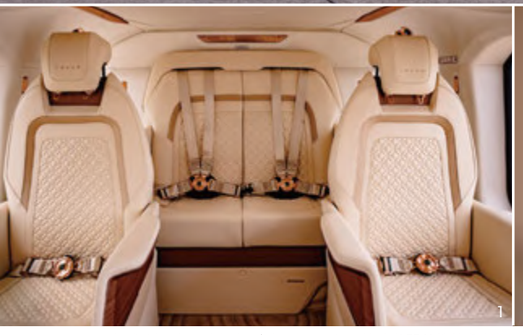


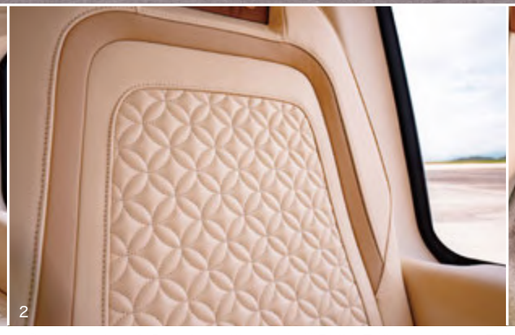
LEXUSが空のモビリティとして展開するLEXUS Helicopter。
レオナルド社製AW169をベースに、最大7名が搭乗できる専用機となっている。


流麗なフォルムが印象的な
機体前部。LEXUSらしい
存在感を感じさせる。



鮮やかなボディカラーを採用した機体側面にはLEXUSのロゴを配置。


1


2


3

1. 洗練された雰囲気が漂うキャビンは快適な空の移動を支える。2. キルティングを施したシートバックなど、質感にもこだわったインテリア。
3. キャビンの足元にも意匠を凝らし、機内の細部まで上質感のある空間に仕上げている。

2026 HORIZON OPEN HOUSE

Kaohsiung Taiwan,4-6 March 2026

2026年3月4日から6日にかけて、台湾・高雄で「2026 Horizon Open House」が開催された。世界各国からオーナーや販売店関係者が集まるなか、LEXUSの新たなフラッグシップヨットLY680が初披露されたほか、レセプションパーティーや工場視察など、多彩なプログラムが実施された。LEXUSとHorizon Groupが共に歩んできた2年間の成果と、その背景にあるモノづくりの現場を取材した。



台湾・高雄で開催された2026 Horizon Open Houseで世界初公開されたLY680。







1. 会場となったHorizon City Marina。高雄のウォーターフロントに位置し、海と都市が調和する美しい景観が広がる。2. 船体には新色となるソニックカッパー×グレーメタリックを採用。船舶用塗料を用いながら海での使用環境に合わせて開発された特別なカラーリング。3. 船体はフライブリッジやスイミングプラットフォームの拡張により、より存在感のあるスタイリングへと進化している。

LY680を世界初公開

Horizon Groupが2年に一度開催するHorizon Open Houseはオーナーや販売店関係者をはじめ、世界各国から多くのゲストが集う同社最大級のイベントだ。会場となったHorizon City MarinaにはHorizon Groupが手掛けるラグジュアリーヨットが並び、各国から集まったゲストたちが交流を深めながら、ブランドの世界観を共有する場となった。そのなかで大きな注目を集めたのが、このイベントで世界初公開となったLEXUSの新たなフラッグシップヨットLY680である。2024年のジャパンインターナショナルボートショーで発表された同モデルが、今回初めて実艇として姿を現し、来場者は船内外を見学しながら進化したデザインや独自の世界観を確かめていた。

LEXUSとHorizonが生み出した新たなフラッグシップ

Horizon Open House初日には集まったゲストを招いてパーティーが開催され、会場ではトヨタ自動車マリン事業部の林豪副部長がステージに登壇。林副部長は2年前に同じ会場でLEXUSとHorizon Groupによる新たな挑戦を発表したことを振り返りながら、その成果として誕生した量産モデルLY680を紹介した。また、LEXUSが掲げる新たなビジョンとして、陸・海・空、そして暮らしをシームレスにつなぐモビリティの未来についても言及。LY680についてはLEXUSの思想とHorizon Groupの高い建造技術が融合したモデルであることを強調し、両社のパートナーシップによって実現した新たなフラッグシップとして位置付けた。スピーチの中ではLY680の実現に尽力したHorizon Groupへの感謝も述べられ、林副部長はLY680を「LEXUSの精神とHorizonの熟練の技が息づいているモデル」と表現し、両社が培ってきた信頼関係の重要性について語った。また、水上においては空間そのものが大きな価値になるとし、より豊かで快適な時間を過ごせるラグジュアリー空間の創出を目指していることにも触れた。今後もHorizon Groupと共に挑戦を続けながら、新たな価値を持つLEXUS YACHTを提案していく考えを示した。



パーティーではトヨタ自動車マリン事業部の林豪副部長が登壇し、LY680の開発を支えたHorizon Groupへの感謝が伝えられるとともに、LEXUSの将来像を共有する大切なパートナーとして、今後も両社の強固な信頼関係を築いていく姿勢が示された。



Horizon GroupのJohn Lu CEO。「Horizonのコアバリューは人」と語り、LEXUSとのパートナーシップへの感謝を述べた。





パーティーにはHorizon Groupの関係者をはじめ、世界各国からオーナーや販売店など、大勢のゲストが参加しており、活発な交流が行われていた。



Horizon City MarinaではHorizon Groupが手掛けるラグジュアリーヨットやLY680を展示しており、参加したゲストは各艇の世界観を堪能しつつ、一艇ずつ熱心に見学していた。

水辺の開放的なロケーションで開催されたパーティー。上質な雰囲気のなか、各国から集まったゲスト同士の交流も深められた。

海の上に広がるLEXUSの世界観

LY680は2024年に発表されたLY650の後継モデルとして開発されたLEXUS YACHTの最新モデル。「海の真ん中で、本物を知る人が素の自分に戻れる、隠れ家のような空間」をコンセプトに掲げ、LEXUSのデザインフィロソフィーであるL-finesseを体現したエクステリアと、細部まで作り込まれた上質な居住空間を追求している。エクステリアは流麗なスタイリングを継承しながら、フライブリッジを約1,400mm、スイミングプラットフォームを約700mm拡大。これまで以上にゆとりある空間を実現している。フライブリッジには大型ラウンジソファやウェットバーを新たに採用し、海と風を感じながらくつろげる空間を創出。インテリアには美しい木目を持つユーカリ材を使用し、VIPルーム、ゲストルーム、フルビームマスタールームを備えた3キャビンレイアウトを採用するなど、LEXUSらしい上質な空間づくりが随所に盛り込まれている。







1. LY680とともに展示されたLEXUS LC500コンバーチブル。陸と海に広がるLEXUSの世界観を演出していた。**2.** 陸上には大型艇にも採用されるVolvo Penta IPSドライブを展示。**3.** マリーナではライブ演奏も行われ、ゲストたちは特別なひとときを楽しんだ。





幻想的にライトアップされたLY680が夜のマリーナに浮かぶ。各部に配置されたイルミネーションが優雅な雰囲気を演出する。







1. フライブリッジは約1400mm延長され、多くのゲストがゆったりとくつろげるよう、大型ラウンジソファを配置。**2.** 従来モデルと同様にフライブリッジにもヘルムステーションを備え、上質な空間と機能性を両立している。**3.** LY680では新たにフライブリッジにウェットバーを設け、海上での滞在を快適にサポートする。





洗練されたサロンはエレガントな雰囲気を演出。サロンの家具には美しい木目が特徴のユーカリを採用し、大きな窓から自然光が差し込む開放的な空間としている。

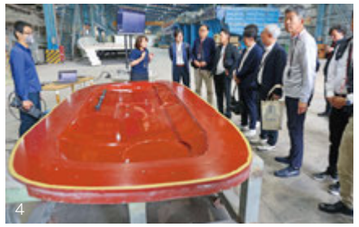


Horizon Shipyardを訪問した一行。Horizon Groupは設計から建造までをグループ内で一貫して手掛けており、艇庫には建造中のヨットが多数並んでいた。

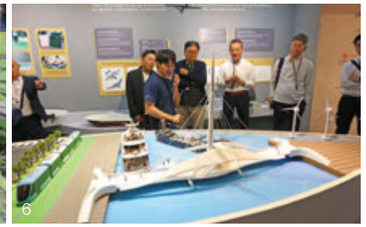

1


2


3


4


5


6

1. Horizon Shipyard では主に80～150ftクラスのラグジュアリーヨットを建造している。**2.** 大型モールド製作などに活用される5軸CNC加工機。Horizon Groupのモノづくりを支える重要な設備のひとつ。**3.** 完成した艇には厳格な水漏れ試験を実施。モンスーンを想定した環境下で防水性能を確認している。**4.** A-Techの工場内も視察。ここではモールド製作から複合材成形まで、Horizon Groupの高品質なモノづくりを支える技術について説明があり、参加者は担当者の説明に熱心に耳を傾けていた。**5.** A-Techでは独自のレジンインフュージョン技術を採用。高強度・軽量化を実現する複合材成形技術は大型艇の船体成形にも活用される重要な製造技術。**6.** ヨット建造で培った技術を活かし、風力発電や橋梁、鉄道車両、防衛産業など幅広い分野にも技術を展開している。

世界基準の品質を支える Horizon Groupのモノづくり

アジアを代表するヨットビルダーとして知られるHorizon Groupは設計から建造までをグループ内で一貫して手掛ける体制を構築しており、それぞれの拠点にて高品質のヨットを建造している。今回の視察にはLY680をオーダーしたオーナーをはじめ、販売店スタッフやトヨタマリン関係者も参加。最初に訪れたHorizon Shipyardは80～150ftクラスのラグジュアリーヨットを手掛けるHorizon Groupの中核造船所で、年間20～25艇を建造する生産能力を持つ。施設内では5軸CNC加工機や3Dプリンターなどが活用され、先進的な技術開発への取り組みも紹介された。続いて訪れたA-Techは独自のレジンインフュージョン技術を採用し、高強度・軽量化を実現する複合材成形技術は大型艇の船体成形にも活用されている。参加者は各施設を巡りながら、Horizon Groupのモノづくりを支える生産体制や高い技術力について理解を深めていた。



LY680をオーダーしたオーナーをはじめ、販売店関係者やトヨタマリンスタッフがVISION Shipyardを訪問。建造中のLY680を見学し、完成への期待感を高めていた。

LY680を建造する Vision Shipyard

続いて一行が訪れたのはLY680の建造を担うVision Shipyard。ここはHorizon Groupの60～80ftクラスのラグジュアリーヨットを専門に建造する造船所だ。ISO9001認証を取得した施設内には最大15艇を同時建造できる生産体制を備え、試験水槽やインテリアデザインセンターなども併設されている。工場内では建造中の艇や製造設備を見学しながら、船体成形から艤装、内装施工に至るまでの工程について説明を受けた。完成後には見ることのできないモノづくりの現場を見学することで、LEXUS YACHTに求められる品質や精度がどのように実現されているのかを知る貴重な機会となった。LEXUSの思想とHorizon Groupの高い建造技術。その融合によって生み出されるLY680はこうした現場から世界へ送り出されている。



工場内では建造中のLY680が2艇並び、オーナーや販売店関係者は大型艇建造の現場を間近で見学した。建造中の艇を上から見学できる機会も設けられ、完成後は内装で覆われる船内レイアウトや各区画の構造など、建造中ならではの貴重な光景を目にした。



LY680 OWNER INTERVIEW

台湾・高雄で開催されたHorizon Open Houseで世界初公開されたLY680。会場にはLY650を所有し、新たにLY680もオーダーしている福山オーナーの姿もあった。今回は福山オーナーとご友人の原さんに、LY650の魅力や進化したLY680について話を伺った。

◀ 福山オーナー（写真右）とご友人の原さん（写真左）

信頼が後押しした夢の実現

幼い頃から近くにヨットハーバーがあったこともあり、船を身近に感じながら育ったという福山オーナー。学生時代には友人とボートで淡路島を訪れるなど、海に親しむ機会も多く、いつかは自分でも船を持ちたいと思っていた。歳を重ね、ボートを所有できる環境が整ったことをきっかけに、長年抱いていた夢を実現することに。福山オーナーにLY650を選んだ理由を伺うと、真っ先に挙がったのはLEXUSのラグジュアリーヨットを国内に展開するトヨタマリンへの信頼だった。「ボートはクルマのように頻繁に買い替えるものではありません。長く付き合うものだからこそ、アフターメンテナンスや部品供給が重要だと思っていました。海外で大型艇を製造しているメーカーも検討しましたが、やはりトヨタなら安心できるという気持ちが大きかったですね。」

LY650が広げた海の楽しみ方

LY650を購入後、福山オーナーは仲間やゲストを船内に招いて船上でパーティーを開いたり、花火大会を海上から観覧したりと、海での非日常の時間を楽しんでいる。「実際に船を持ってみると、やっぱり海っていいなと思いました。何をして遊べばいいのか最初は分からない部分もありましたが、トヨタさんのサポートやボート仲間との交流もあって、楽しみ方がどんどん広がっていきました。」そう語る福山オーナーの穏やかな表情からは充実したマリンライフを送っていることがうかがえた。他にも、福山オーナーは海外からのゲストを東京湾へ案内することもあり、そのたびにLEXUSならではの世界観を感じているという。「海外のお客様に東京湾をクルージングしてもらうと、『LEXUSの船で東京湾を走った』という体験が印象に残るようです。」

独創的なデザインを評価

マリーナでひと際存在感を放つLY650のデザインはオーナーだけでなく、ゲストからも高い評価を受けている。福山オーナーとともにボートライフを楽しんできたご友人の原さんも、LY650の魅力に惹かれた一人。自身も経営者として多くのラグジュアリーブランドや上質なプロダクトに触れてきた原さんにもLY650のデザインについて伺うと、「夢の島や逗子、芦屋のマリーナにもたくさん船がありますが、LY650みたいなデザインの船はなかなかありません。遠くからでもすぐ分かりますし、水中ライトも綺麗です。誰の船かすぐに見つけられるのもいいですよね。」そう評価する原さんの言葉からも、LY650 が持つ独創的なデザインの魅力が伝わってきた。

LY680が描く 次なるモビリティライフ

今回初公開されたLY680を見て、二人は特にフライブリッジの進化に注目していた。「東京の夜景を見るときはフライブリッジからの景色が本当に綺麗ですが、いつも場所の取り合いになっていました。LY680はフライブリッジが長くなり、だいぶ印象も変わりましたね。」原さんがフライブリッジの拡張を評価する。続けて福山オーナーも「以前は景色を見たら下へ降りていましたが、LY680ならみんなでフライブリッジに留まれそうですね。」と嬉しそうに語ってくれた。その後も話を聞いていると、話題は自然とLEXUSというブランドそのものへと広がった。お二人はLYの世界観に触れたことで、LEXUSに対する見方も大きく変わったという。「以前はトヨタの高級車ブランドというイメージでしたが、船の作り込みや世界観にも触れたことで、クルマだけではなく、ラグジュアリーなライフスタイルそのものを提案しているブランドだと改めて感じるようになりました。」と語る福山オーナー。新たにオーダーしたLY680で今後どんな遊びをしてみたいか伺うと、仲間やゲストと瀬戸内海でクルージングを楽しみたいとのこと。「瀬戸内海には魅力的な街がたくさんありますし、美味しい食事を楽しめる場所も多い。地中海みたいな感覚でクルージングを楽しめると思います。」福山オーナーが思い描く瀬戸内海クルージングにはLY680が広げる新たなボートライフの可能性が詰まっている。LEXUSが提供しているのは単なる移動手段ではなく、人生を豊かにする時間そのものである。

JIDA Design Museum Selection Vol.27
LY680とCROWN（セダン）が選定

公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会（JIDA）が主催する「JIDAデザインミュージアムセレクション」に、LEXUSのラグジュアリーヨット「LY680」と、トヨタ自動車の「CROWN」が選定された。海と陸、それぞれの分野で新たな価値を提案する2つのモビリティが、そのデザイン思想を評価され、歴史と伝統あるセレクションに名を連ねた。



JIDAデザインミュージアムセレクションに選定されたLY680とCROWN（セダン）。

優れたデザインを未来へ伝える活動

JIDAデザインミュージアムは1993年の「デザインミュージアム活動発足宣言」をきっかけに始まり、日本の優れたインダストリアルデザインを記録し、収集・保管・展示を通じて未来へ伝える活動を行っている。今回のセレクションにおいて、LY680は上質で快適な居住性や開放的なフライブリッジスペースをLEXUSのデザインフィロソフィーである「L-finesse」を具現化した流麗な意匠と両立。LEXUSが培ってきた世界観を海上へと展開し、新たなモビリティの可能性を示したことで、今回の選定につながった。一方のCROWNは「ニューフォーマル」をコンセプトに、ファストバックにした空間と王道のプロポーションを両立し、伝統的なセダンの価値観と現代のライフスタイルを融合させたモデルとして評価された。水平基調のスタイリングや風格ある佇まいに加え、後席の快適性や実用性を両立した点なども選定理由として挙げられている。分野は異なるものの、両モデルに共通するのは機能性と意匠性を高い次元で両立し、人の豊かな体験を追求している点だ。今回の選定は海と陸のフィールドで培われたデザイン思想が高く評価されたことを示すものとなった。



JIDAデザインミュージアムでは毎年選定された優れたプロダクトを展示。異なる分野の製品を通じて、日本のものづくりとデザインの魅力を紹介している。



今年はLY680やCROWNをはじめ、特急列車、時計、カメラ、ヘッドホン、医療機器など幅広い分野の製品が選定された。機能性や使いやすさ、美しさを高い次元で融合したプロダクトが並び、日本のインダストリアルデザインの現在地を示していた。

LY680 IMPRESSION



クルマという枠を超え、海の上でもLEXUSならではの価値を追求してきたラグジュアリーヨット「LY」。そのフラッグシップがさらなる進化を遂げ、LY680として新たなステージへと踏み出した。流麗なスタイリングと上質なインテリアを兼ね備えた船体はフライブリッジやスイミングプラットフォームを拡張。船上で過ごす時間に、これまで以上のゆとりと広がりをもたらしている。LEXUSが海の上で描くラグジュアリーを、LY680の随所から紐解いていく。







海面を力強く捉えながら航走するLY680。全長20.66mの船体ながら、安定した姿勢と滑らかな走りが印象的だ。

LEXUSが追求する「すっきりと奥深い」航走性能

LY680はLEXUSのデザインフィロソフィー「L-finesse」の思想を受け継ぎ、LY650で培われたスタイリングや基本性能を継承しながら、フライブリッジとスイミングプラットフォームの拡充を中心に改良を加えたフラッグシップ艇である。今回の試乗艇にはVolvo Penta IPS 1350を2基搭載（標準仕様はIPS 1050）し、安定した操縦性と優れた乗り心地を追求。LEXUSが掲げる「すっきりと奥深い」走りを実現している。実際にスロットルを入れると、まず感じるのは20mを超える船体を意識させないレスポンスの素直さである。スロットル操作に応じて速度は自然に乗り、巡航域まで滑らかにつながっていく。IPSによる推進力にも十分な余裕があり、速度を高めても船体の姿勢変化は穏やか。また、静粛性の高さも印象的で、巡航中も船内には穏やかな時間が流れる。操船そのものに集中しながら、LY680ならではの世界観にじっくりと浸れるのも魅力だ。



LY650から約1,400mm延長したフライブリッジ。ゲストとゆったり過ごせるオープンスペースには新たにウェットバーを採用。







フライブリッジにはヘルムステーションのほか、サンパッドやソファ、テーブルを配置。操船だけでなく、景色を眺めながらくつろいだり、ゲストとの歓談を楽しんだりと、多彩な過ごし方に応える。







スイミングプラットフォームを約700mm延長。LY650との比較ではその広がりがより明確に分かる。海へのアクセス性を高めるとともに、デッキシャワーも備え、マリンアクティビティ後の使い勝手にも配慮されている。

ゲストとの時間をより豊かにする新設計のフライブリッジ

LY680を象徴する大きな進化が、フライブリッジとスイミングプラットフォームの拡張である。なかでもフライブリッジはLY650から約1,400mm延長され、これまで以上にゆとりある空間へと生まれ変わった。広げられたスペースにはラウンジソファを配置し、新たにウェットバーも採用。ドリンクや軽食を楽しみながらゲスト同士がゆったりと時間を共有できる。また、スイミングプラットフォームは約700mm延長しており、海へのアクセス性を高めるだけでなく、マリンアクティビティの拠点としても使いやすさを向上している。フライブリッジでは海上でのくつろぎを、スイミングプラットフォームではオフショアでの楽しみ方をさらに広げる。単なるスペース拡張にとどまらず、船上で過ごす時間の質と選択肢を高めたことが、LY680における大きな進化のひとつである。


1


2


3


4


5


6

1. ユーカリ材の美しい木目を生かしたメインサロン。明るいトーンでまとめられたインテリアが、上質で落ち着いた雰囲気を演出している。**2.** サロン後方に備えられたギャレーは調理機器や収納を備えた本格的な仕様。**3.** メインサロンのオーナメントパネルにはイルミネーションを追加。新素材「ブラノーブキュイア」の表皮にサイズの異なる穴を散りばめ、淡い光が見る角度によって表情を変えながら、星空のような輝きを見せる。**4.** ソファやテーブル、ヘルムステーションを機能的に配置。床に施されたLモチーフが、LEXUSの世界観をさりげなく印象づける。**5.** ヘルムステーションはスイッチ類の配置をLY650から見直し、より扱いやすい操船環境へと改良。**6.** サロン中央にはLモチーフを取り入れたテーブルを配置。

ゲストとの時間を心地よくつなぐ LEXUS流のおもてなしを形にしたサロン

メインサロンは大きなサイドウインドウから自然光を取り込む明るい空間。ユーカリ材の美しい木目と落ち着いたカラーを組み合わせたインテリアが、上質で穏やかな雰囲気を演出。曲線を生かした柔らかな造形や照明の演出によって、開放感を保ちながらも包まれるような心地よさをつくり出している。こうした細部まで妥協なく仕立てる姿勢にはLEXUSが掲げる「CRAFTED」の思想が表れている。床やテーブル支柱にはLをモチーフとした意匠があしらわれ、LEXUSならではのアイデンティティをさりげなく感じさせる。サロンにはソファとテーブルを配置し、後方にギャレー、前方にヘルムステーションをレイアウト。ヘルムステーションには大型ディスプレイを備え、良好な前方視界を確保。長時間の航行でも必要な情報を確認しやすく、ロングクルージングを支える機能的な操船環境が整えられている。また、操船者がゲストと同じ空間を共有しながら過ごせるレイアウトは船上でのコミュニケーションにも配慮したものとなっている。先進性を感じさせるデザイン、細部まで作り込まれた意匠、そして乗る人を心地よく迎える空間構成。それらをひとつのサロンにまとめ上げているところにも、LY680に息づくLEXUSらしい丁寧な空間づくりが感じられる。


1


2


3


4


5


6

1. フルビームのマスターステートルームは大きなサイドウインドウから自然光を取り込み、オーナーがゆったりとくつろげる落ち着いたプライベート空間に仕上げられている。2. ベッドの対面にはソファとテレビを配置。3. 専用のシャワールームとトイレはもちろん、洗面スペースもゆったりと設けられ、長時間のステイを支える。4. バウ側に設けられたVIPキャビン。中央にベッドを配置したシンメトリーなレイアウトで、上質な設えとゆとりある空間が確保されている。5. 落ち着いた色調でまとめられたゲストルーム。6. メインサロンとロアデッキをつなぐステップ。途中にはコーヒーメーカーやワインセラーを備え、ステップはLをモチーフとした鏡面仕上げを採用。

海の真ん中に設えた 素の自分に戻れるプライベート空間

ロアデッキにはマスターステートルーム、VIPキャビン、ゲストルームの3室を配置。LYが目指してきたのは海の真ん中で肩の力を抜き、素の自分に戻れるようなプライベート空間である。なかでもマスターステートルームはベッドに加えてソファやテレビはもちろん、専用のシャワールームも確保され、長時間のステイにも対応する。VIPキャビンは中央にベッドを配置し、左右のウインドウから自然光を取り込むことで、明るく開放感のある空間に仕上げられている。さらにゲストルームも用意され、家族や友人など、複数のゲストが乗船した際にも、落ち着いてくつろげる環境を確保している。サロンで人と過ごす時間を楽しみつつ、それぞれが海の真ん中でリラックスして過ごせる隠れ家のような感覚こそ、LY680のプライベート空間が持つ大きな魅力である。海上での移動手段としての性能だけでなく、ゲストを迎え、時間を共有し、それぞれが自分らしく過ごせる空間まで丁寧につくり込まれているLY680。そこには、クルマで培ってきたLEXUSの思想を海の上へと広げた、独自の価値観が確かに息づいている。

LY680

全　長：20.66 m
全　幅：5.76 m
喫　水：1.57 m
重　量：33.36 ton
燃料容量：4,012 L
清水容量：852 L
エンジン：2 × Volvo Penta IPS 1350 / 1050

詳細はこちら

YouTubeで
動画も配信中
YouTube

JAPAN BOATSHOW 2026 INTERNATIONAL

国内最大級のマリンイベント「ジャパンインターナショナルボートショー2026」が、3月19日（木）から22日（日）までの4日間にわたり開催された。今年で65回目を迎える本イベントはパシフィコ横浜と横浜ベイサイドマリーナを中心に、約200の企業・団体が出展。最新のボート、ヨット、水上バイク、マリン用品など、多彩な展示が披露され、総来場者数は41,874名を記録。会場では体験プログラムも充実しており、子どもの来場者数は過去最高となる5,000名を超えるなど、体験機会の拡充を通じて、次世代のマリンファン育成にもつながる貴重な機会となっていた。



パシフィコ横浜のトヨタマリンブースではPONAM-31 Xグレードの実艇を中心に、空のモビリティ「JOBY」やマルチユースに対応するバッテリーEV「e-Palette」など、様々なモビリティを展示。ブース内は多くの来場者で賑わいを見せていた。



会場はパシフィコ横浜、横浜ベイサイドマリーナを中心に、日本丸シーカヤックパーク、八景島マリーナ、ぶかりさん橋を加えた計5会場で展開。メインステージではさかなクンやトヨタアスリート高原奈穂さんによるトークショーも開催。その他にも、幅広い世代が参加可能な体験コンテンツが多数開催されていた。





ブースでは PONAM-31Xグレードの実艇が展示され、洗練された船内空間やデッキレイアウトをスタッフが丁寧に説明。また、PONAM-31Ⅱのパネル展示も実施され、サーキュラーエコノミーをテーマに、再生材の活用やHVO燃料対応エンジンなど、環境負荷の低減に向けた取り組みを紹介した。



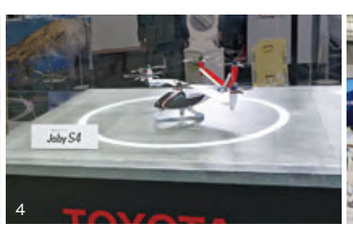


1. スマホ操船や自動着桟をサポートする操船支援システムもパネルで解説された。**2.** 会場ではゲーム感覚で操船を体験できるデジタルコンテンツも展開され、大人から子どもまで楽しめるコーナーとなっていた。

PONAM-31Ⅱをパネル展示

今回のボートショーでは昨年に続きパシフィコ横浜へ出展するとともに、横浜ベイサイドマリーナにも実艇を展示し、2つの会場それぞれで異なる切り口からマリンの魅力を提案。パシフィコ横浜ではブース中央でPONAM-31 Xグレードの実艇を展示し、多くの来場者が船内へ足を運んだ。PONAMシリーズが長年培ってきた優れた走行性能や快適な居住性、使い勝手の良いレイアウトを実際に体感することで、ニューモデルとなるPONAM-31Ⅱへの期待感も高めていた。PONAM-31Ⅱはパネル展示で披露され、再生材の活用事例やHVO燃料への対応など、環境負荷低減への取り組みや開発コンセプトが解説された。TM-CASTの新機能となるスマホ操船はトヨタ独自の操船支援システムをスマートフォンで操作できる画期的な技術として、多くの来場者が展示エリアで足を止めていた。展示パネルの前では担当者が熱心に説明する姿が随所で見られ、高い関心を集めていた。VRを活用した体験エリアではゲームシミュレーターを装着した来場者が操船支援システムを実際に体験。先進技術を身近に感じられるコーナーとして賑わいを見せていた。他にも、ブース内には空のモビリティとして「JOBY」の模型を展示したほか、次世代モビリティ「e-Palette」も配置。陸・海・空をシームレスにつなぐトヨタのモビリティ構想も示され、海だけにとどまらない幅広いモビリティへの取り組みを来場者へ発信した。







3. 当日は整理券制が採用され、来場者はスムーズに船内見学を楽しんでいた。**4.** トヨタが手掛ける空のモビリティ「JOBY」の模型が展示され、空の移動という領域への取り組みが紹介されていた。**5.** 次世代モビリティ「e-Palette」がモンスターカプセルとのコラボ仕様で登場。



横浜ベイサイドマリーナ会場には国内外のボートやヨットの注目モデルが集結。フローティング展示ならではの臨場感の中、各艇の魅力を間近で体感できる機会となった。







トヨタマリンでは国内初披露となったPONAM-35svと、LEXUSブランドのラグジュアリーヨットLY650を展示。陸上テントではPONAM-31ⅡやLY680のパネル展示も行われ、来場者へ各モデルの特徴や魅力を紹介していた。



各社の注目モデルが並ぶ桟橋には多くの来場者が集まり、一艇ずつ装備やレイアウトを熱心に見学していた。

PONAM-35svを初披露

今年は新たに横浜ベイサイドマリーナ会場において、LY650とニューモデルとなるPONAM-35svを展示。海上展示は船体のスケール感やデッキレイアウト、動線設計といった要素を実環境に近い形で確認できる点が特徴だ。なかでも今回の大きな見どころとなったのが、実艇初披露となるPONAM-35svのフローティング展示。桟橋から全体像を俯瞰できるだけでなく、実際に船内へと足を踏み入れることで、キャビンの広がりや各スペースの関係性、装備の配置などを具体的に把握できる機会となっていた。また、桟橋にはLY650もフローティング展示されており、洗練されたデザインやLEXUSの世界観を間近で体感できる機会が用意されていた。2艇が並んで展示されることで、それぞれのコンセプトや個性の違いがより鮮明となり、多彩なラインナップを来場者に印象づけていた。今回はパシフィコ横浜で先進技術や未来のモビリティを紹介した一方、横浜ベイサイドマリーナでは実艇の魅力を訴求するなど、異なるテーマで展開しており、トヨタマリンの幅広い取り組みを象徴する展示構成となっていた。



水面に浮かぶ実艇は陸上展示とは異なる存在感を放ち、多くの来場者が桟橋からその美しいフォルムに見入っていた。

JAPAN INTERNATIONAL BOAT SHOW 2026

詳細はこちら

「TM-CAST」にスマホ操船の機能を追加
手元から広がる、新しい操船スタイル



トヨタマリンが展開する操船支援システム「TM-CAST」に、新たな操船スタイルをもたらすスマホ操船が加わった。スマートフォンやApple WatchからTDA＋（トヨタドライブアシストプラス）による操船操作をはじめ、TVAS（トヨタバーチャルアンカーシステム）やTDS（トヨタドッキングサポート）の各機能まで操作でき、釣りや離着岸時の操船負担を大きく軽減してくれる。よりスマートに操船を楽しめる新機能を紹介しよう。

スマホ操船では専用アプリからTVASも操作可能。定点保持をはじめ、流す方位やスピードの調整まで手元で行えるため、釣りを続けながら船の動きをコントロールできる。

釣りの最中も手元でTVASを操作
竿を置かずに船の動きをコントロール

スマホ操船は専用アプリをダウンロードすることで、スマートフォンやApple Watchで船を前後左右へ動かせるだけでなく、旋回操作もでき、船内であればヘルムステーションから離れた場所でも操作が可能。例えば釣りのシーンでTVASを活用すれば、ロッドを手にしたままApple WatchからTVASを操作できる。定点保持はもちろん、流す方位やスピードまで手元でコントロールできるため、船を操作するたびにヘルムステーションまで戻る必要もない。釣りを続けながら必要な操作を行えることは大きなメリットであり、船をコントロールする場所が限定されないことで、船上での動きにも余裕が生まれる。



スマートフォン用アプリ「My PONAM」はApple Watchでも利用可能。「TM-CAST」と連携することで、様々な操船支援システムを手元で操作できるのが魅力だ。



TM-CAST
TOYOTA MARINE - CAPTAIN ASSIST TECHNOLOGIES





スマホ操船を使えば離着岸もスマートに行える。操船者自身がアフトデッキなどに移動し、桟橋との距離感を確認しやすい場所からスマートフォンやApple Watchを使って船を動かせる。

離着岸でもスマホやApple Watchが活躍
見やすい位置から船をコントロール

スマホ操船のメリットがより分かりやすく表れるのが離着岸のシーン。離着岸を行う際はTDSを使用することで、操船者自身がアフトデッキやフライブリッジなど、船内を移動できるため、桟橋との距離や周囲の状況を直接確認しやすい場所で船を動かせる。また、マリーナなどへの入出港時にはTDA+を使用することで、前後左右への移動や旋回もスムーズに行える。少人数での離着岸時は操船やロープワークの負担が増えるため、スマホ操船を使用するメリットは大きい。釣りではTVAS、離着岸にはTDA+やTDS。TM-CASTが備える複数の操船支援機能にスマホやApple Watchという新たな操作手段が加わることで、キャプテンの動きはより自由になり、これまで以上にスマートな操船をサポートしてくれる。

App Store からダウンロード

Google Play で手に入れよう

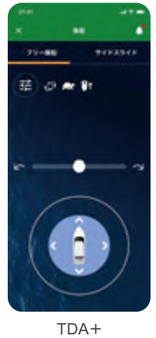
専用アプリ「My PONAM」のスマートフォンでの操作画面。シンプルかつ分かりやすい表示で、前後左右への操船や船位保持、離着岸支援など、画面上から必要な機能をスムーズに操作できる。



アプリ画面



機能選択画面



TDA+



TVAS



TDS

安全航行と操船技術の習熟を図る一日

トヨタマリン航行訓練&海上安全祈願開催





今回の航行訓練& 安全祈願イベントには日本事業本部の友山茂樹本部長（最前列中央）と有馬裕洋副本部長（同左）も参加。三重県鳥羽市の神島に位置する八代神社にて、トヨタマリンスタッフとともに一年の安全航行を祈願。




ラグナマリーナから神島に向けて出航。海上ではニューモデルのPONAM-35svでも航行訓練を実施。
実際の走行を通じて、加速性能や凌波性などの性能が良いことをスタッフ同士で確認、共有していた。

航行訓練を通じて
操船技術と経験を共有

5月6日（水）、マリン事業部による航行訓練と海上安全祈願が実施された。当日は日本事業本部友山本部長と有馬副本部長をはじめ、17名のスタッフが参加。使用されたのはニューモデルとなるPONAM-35svとPONAM-35swの2艇。今回の航行訓練は日頃培ってきた操船技術をさらに高めるとともに、スタッフ同士の技術継承や船に対する理解を深めることを目的に実施。ラグナマリーナを出航した2艇は伊良湖沖でボートフィッシングや航行訓練を行った後、伊勢湾口に位置する神島へと向かった。神島では古くから島の人々の暮らしや海上安全を見守る存在として信仰されてきた八代神社を参拝し、一年の安全航行を祈願した。航行訓練やボートフィッシング、安全祈願を通じ、スタッフ同士で操船技術や経験を共有した今回の取り組み。トヨタマリンスタッフ一人ひとりが船への理解をさらに深め、安全意識を高める有意義な機会となった。



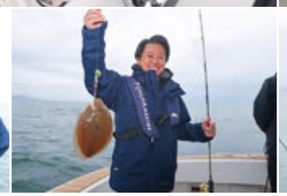

神島への入港時には港内の状況や経路を確認しながら、
注意点や操船のポイントをスタッフ同士で共有した。


200段を超える高い石段の上に鎮座する八代神社には海の神として信仰される綿津見命（わだつみのみこと）が祀られており、古くから島の人々や航海の安全を見守る存在として信仰を集めてきた。












様々な魚種を狙って釣りを楽しむとともに、ポイントへのアプローチや船の位置取りなど、ボートフィッシングに求められる操船技術についてもスタッフ同士で共有。
実践的な経験を積む貴重な機会となった。



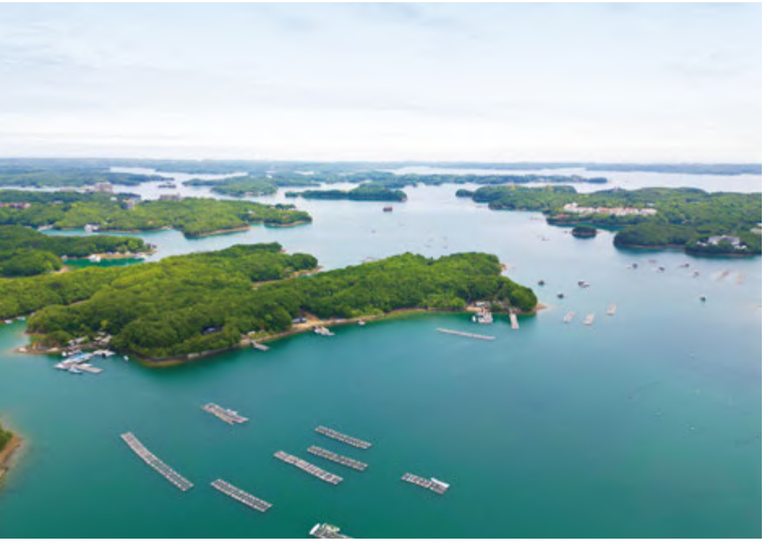

海上では友山本部長自らスマホ操船を体験。トヨタマリンスタッフから機能や操作について説明を受けながら、実際の操船を通じてその精度を確かめていた。

穏やかな海を巡り、志摩の恵みに出会う

PONAM-35sv 英虞湾クルージング



今回はPONAM-35svで英虞湾を巡り、普段とは異なる海からの視点で志摩エリアの魅力を楽しむ。



英虞湾は複雑に入り組んだ海岸線と大小の島々が織り成す、穏やかで美しい景観が続いている。クルージングポイントとしても屈指の人気を誇る。

PONAM-35svで目指したのは穏やかな水面と入り組んだ海岸線が美しい三重県・英虞湾。変化に富んだ湾内をゆっくりと巡った先には海辺に佇む趣のある宿が待っていた。土地の恵みを生かした上質な料理を味わい、ゆったりと流れる時間に身を委ねる。今回は英虞湾を巡るクルージングと、海辺の宿で過ごす穏やかなひとときを紹介する。



海上から志摩地中海村を見学。陸上からは見ることのできない海岸の表情や、海に面して佇む建物など、船から眺めることで初めて出会える景色がある。





英虞湾の入り江を進んだ先に佇む檜扇荘。プレジャーボート専用の桟橋も備え、海からのアクセスにも対応している。　※桟橋の利用は要事前予約。

海から訪れることで、旅はもっと自由になる

ラグナマリーナを朝6時30分に出航したPONAM-35svは約1時間で神島沖へ。今回は航程の途中に釣りの時間を取り入れた。しばらく釣りを楽しんだ後、再び船を走らせて英虞湾へ。神島沖から英虞湾の入口まではおよそ1時間、さらに湾内を30分ほど進むと目的地の檜扇荘に到着する。こうして釣りや食事などを取り入れ、自分たちのスタイルに合わせて一日を組み立てられるのも、プレジャーボートならではの魅力である。英虞湾に入ると、外洋を駆ける爽快な航走とは趣が異なり、入り組んだ海岸線を眺めながら船を進めていく。その先に姿を見せるのが志摩地中海村だ。白を基調とした建物が海岸沿いに連なる景観は印象的で、陸側から訪れたときとはまた違った姿を見せてくれる。普段ならクルマで向かう場所を海側から眺めることで、その土地の新たな表情に出会えるのも船旅ならではの楽しみの一つ。穏やかな海域では速度を緩め、景色を楽しみながら船を進める。英虞湾のように変化に富んだ風景が続く場所だからこそ、そんなクルージングの楽しみ方がよく似合う。

香り豊かな檜で造られた宿で志摩の恵みに触れる

英虞湾でのクルージングを楽しんだ後、この日の目的地となった檜扇荘へ針路を向ける。船で目的地を訪れ、その土地の料理を味わい、海辺でゆっくりと過ごす。ここからは航海とはまた違った時間が始まる。そして、檜扇荘での滞在をさらに印象深いものにしてくれるのが、志摩の恵みを活かした食事である。近海で獲れた海の幸を並べた舟盛りをはじめ、檜扇貝やサザエ、志摩産あかもく豚やあおさなど、テーブルには土地の味覚を取り入れた料理が所狭しと並ぶ。英虞湾を巡った一日の締めくくりに、その土地ならではの味をゆっくりと楽しむ時間もまた、クルージング先でステイする醍醐味のひとつである。英虞湾の景色、船上で感じた潮風、そしてテーブルに並ぶ料理。それぞれの体験がつながることで、この日のクルージングはより記憶に残るものとなっていく。美味しい料理を食べるために船を出す。お気に入りの宿で穏やかな一夜を過ごすために海を渡る。目的地で何を楽しむかを考えることで、クルージングの楽しみ方はさらに広がっていく。英虞湾と檜扇荘を訪ねた今回の旅はクルージングが単なる航海ではなく、休日の過ごし方そのものを豊かにしてくれることを感じさせる時間となった。



英虞湾のほとりに佇む檜扇荘。総檜造りの建物と穏やかな環境が、
海辺の宿ならではの落ち着いた雰囲気をつくり出している。





木の温もりに包まれた館内には檜風呂をはじめ、くつろぎ広場や宴会場、
和の趣ある客室が用意されている。



天井から洗い場まで檜にこだわった大浴場。
香り高い檜に囲まれた空間で、ゆっくりと湯に浸かることができる。



開放感あふれる露天風呂。外の空気を感じながら湯に浸かり、
クルージング後のひとときを心地よく過ごせる。



檜扇荘での滞在をより豊かなものにしてくれるのが、海の幸を活かした料理の数々。写真は近海で獲れた旬の魚介をふんだんに使った「舟・海鮮会席」。
※料理は撮影時の内容です。季節により内容が異なります。



料理は新鮮な魚介を彩り豊かに盛り込んだ舟盛りをはじめ、焼き物には鮮度抜群の檜扇貝やサザエが並ぶ。
ここに志摩産あかもく豚と彩野菜の陶板料理や芳醇なしらすの風味を楽しめる釜飯、あおさのかき揚げ、あこう鯛の煮付けなど、
目にも華やかな一皿が並び、海辺の宿ならではの贅沢な味わいを楽しめる。

取材の模様を
動画で見る
YouTube

取材協力

檜扇荘
〒517-0501 三重県志摩市阿児町鵜方943
TEL：0599-43-0077



PONAM-31Ⅱ
IMPRESSION

PONAMシリーズが築いてきた高い走行性能を継承しつつ、サロンやフライブリッジをはじめ、各部のレイアウトや機能性にも磨きをかけたPONAM-31Ⅱ。環境負荷低減も見据えた新たなエンジンを搭載するなど、現代のボーティングスタイルに応える一艇へと進化している。





PONAM-31Ⅱは高強度アルミハルと250PS×2基のディーゼルエンジンによって、力強い加速と安定した走行性能を両立。





オプションでスマホ操船も選択可能。専用アプリをダウンロードして「TM-CAST」と連携することで、船内からスマホやApple Watchを使い、前後左右への操船や船位保持、離着岸支援などを画面上で操作できる。





フライブリッジのヘルムステーションはコンソールまわりを見直し、最大16インチのディスプレイを2枚装備可能。
足元スペースも広げられ、よりゆとりある操船姿勢をとりやすくなった。さらに収納力も高められ、使い勝手の向上が図られている。








ガーニッシュはカラーリングや形状を変更し、スプレーの巻き込みも減少させている。フラットなアフトデッキはイケスも完備。搭載する新型エンジンは2.8L直列4気筒でHVO燃料にも対応。また、新たにフェンダーやカバーなどを収められる収納スペースを設けている。

PONAMらしい走りをそのままに船上での機能性を次の領域へ

トヨタマリンを代表するモデルのひとつとして、クルージングからフィッシングまで幅広いシーンで活躍してきたPONAM-31。その基本性能を継承しながら、現在のボーティングスタイルに合わせて各部を磨き上げたのがPONAM-31Ⅱである。全長10.57m、全幅3.20mの船体にはPONAMシリーズの特徴でもある高強度アルミハルを採用。船体構造や装備、操船環境を見直すことで、PONAM-31が培ってきた実用性をさらに高めている。走り出してまず印象に残るのは船体のしっかりとした剛性感だ。スロットルを入れると力強く速度を伸ばしながらも走行姿勢は落ち着いており、巡航域へ入ってからも安定感は高い。ステアリング操作に対する反応も素直で、旋回時には大きく姿勢を乱すことなく、ドライバーが描いたラインに沿うように向きを変えていく。波を越えた後の収まりもよく、船体が不用意に跳ねる印象が少ない。アルミハルが持つ高い剛性とPONAMが積み重ねてきた船体設計が、安心感のある乗り味につながっていることが伝わってくる。搭載するエンジンは新たに採用された2.8L直列4気筒ディーゼル「TOYOTA M1GD-VH」。最高出力250PSを発揮するエンジンを2基搭載し、力強い走りを支えている。また、再生可能資源由来のHVO燃料にも対応するなど、環境性能にも目を向けた仕様とされている。続いて、フライブリッジに目を向けると、コンソールまわりの設計を見直し、ヘルムステーションの足元スペースを拡大。ゆとりある姿勢をとりやすくしたほか、最大16インチのディスプレイを2枚装備できるなど、操船環境の充実も図られている。アフトデッキはフィッシングやマリンレジャーに活用しやすいフラットな空間を広く確保し、新たにフェンダーやカバーなどを収められる収納スペースも設けている。必要な用品を船上に備えながらデッキをすっきり使えるなど、実際の遊び方を考えた工夫が細部にまで盛り込まれ、PONAM-31Ⅱならではの高い実用性につながっている。







サロンは明るいファブリックと木目を組み合わせ、サロンソファやテーブル、ナビゲーターシートを機能的に配置し、ゲストが自然に集まれるレイアウトを実現している。

船内で過ごす時間を
より自由で快適に

サロンへ足を進めると、PONAM-31Ⅱが船内で過ごす時間にも重点を置いていることが分かる。明るいファブリックと木目を組み合わせたインテリアは落ち着きのある雰囲気にまとめられ、機能性と居住性の両立が図られている。ソファなどに使用される生地には海岸に漂着したペットボトルなどを原料の一部として再生した素材を採用。廃棄物を新たな資源として循環させるサーキュラーエコノミーの考え方が、サロンを構成する素材にも取り入れられている。このサロンで大きな特徴となるのが、過ごし方に合わせてレイアウトを変えられるサロンソファ。通常はテーブルを囲んで食事や会話を楽しめるダイネットとして使いつつ、ナビゲーターシートのバックレストを反転させ、テーブルを下げてクッションを組み合わせることで、ソファをフルフラットのスペースに切り替えることもできる。休憩や仮眠など、シーンに応じてサロンの使い方を変えられる柔軟性はPONAM-31Ⅱの大きな魅力の一つ。サロン前方にはロアヘルムを配置。ステアリングを中心に航海計器や各種スイッチ、スロットルを操作しやすい位置にまとめ、必要な機能へスムーズにアクセスできる。さらにバウには横になって休めるバウバースを備える。サロンでの歓談や休憩に加え、より落ち着いて身体を休められるスペースを確保していることも、長時間のクルージングでは大きな安心につながる。ギャレーにはシンクやカウンター、収納スペースを備え、食事の準備や簡単な洗い物など、船内での使い勝手を考えた機能的なレイアウトとしている。走行時から停泊時まで、それぞれの場面に応じて使い方を変えられるサロン。その柔軟なレイアウトは単に居住スペースを確保するだけではなく、実際に船上で過ごす時間をより快適なものにするための工夫が随所に感じられる。PONAM-31Ⅱは走りの魅力に加え、船内で過ごす時間の質も進化させた一艇に仕上がっている。









サロンソファはシーンに応じてレイアウトを変更でき、広いフルフラットスペースとして使うことも可能。バウには横になって身体を休められるバウバースを備え、ロアヘルムには新たにスマホなどを収納できるポケットを設けている。ギャレーにはシンクや収納スペースをまとめ、船内での食事や長時間の滞在にも対応している。

PONAM-31Ⅱ

- 全長：10.57m　- 全幅：3.20m
- 全深：1.93m　- 重量：5.6ton
- 燃料容量：620L　- 清水タンク：110L
- エンジン：2×TOYOTA M1GD-VH
- 最大出力：2×250PS

詳細はこちら

YouTubeで
動画も配信中

YouTube

海の上でこそ分かる船の個性
ボートショーで楽しむ試乗体験

毎年3月に横浜で開催されるジャパンインターナショナルボートショーを皮切りに、春から初夏にかけて全国各地でボートショーが開催される。最新モデルが一堂に会する横浜のボートショーに対し、中部、関西、広島、九州など、各地で開催されるボートショーの大きな魅力は気になるモデルに実際に試乗できること。今回はトヨタマリンが出展した関西ボートショーと中部ボートショーを中心に、エリア別ボートショーならではの楽しみ方をご紹介しよう。

カタログでは伝わらない魅力を体感

ボート選びにおいて、カタログやウェブサイトでスペックや装備を比較することはもちろん重要だ。しかし、実際の乗り心地や加速性能、居住性などは海上で体験して初めて分かる部分も多い。そんな貴重な機会を提供してくれるのが各地で開催されるボートショーだ。今年トヨタマリンが出展した関西と中部で開催されたボートショーでは多彩な試乗艇が用意されており、来場者は気になるモデルの走行性能や居住性を存分に体感していた。ボートライフを始めたい方から買い替えを検討しているオーナーまで、実際に乗り比べながら理想の一艇を探せるこの貴重な機会をぜひ有効に活用して欲しい。

全国ボートショー開催マップをチェック

関西ボートショー2026

［開催期間］
2026年4月10日(金)～12日(日)
10:00～16:30

出展艇 40艇

［開催場所］
新西宮ヨットハーバー
兵庫県西宮市西宮浜4-16-1

国内ではジャパンインターナショナルボートショーに次ぐ規模で行われる西日本最大級のボートショー。海上にはフィッシングボートから大型のサロンクルーザーまで、様々なタイプのモデルを展示。陸上ではマリン用品やマリーナ紹介ブースが多数並び、釣りに関するセミナーも開催。









中部ボートショー2026 in 常滑

［開催期間］
2026年5月16日(土)～17日(日)
10:00～16:00

出展艇 25艇

［開催場所］
NTPマリーナりんくう
愛知県常滑市りんくう町3丁目6番地の1

中部エリア最大級のマリンイベント。ボートメーカーはもちろん、マリン用品メーカーやマリーナなど、様々なマリン関連企業が出展。トヨタ自動車による展示ではゲームシミュレーターを使った離着岸のバーチャル体験を開催。海上ではスマートフォンを使ったスマホ操船の離着岸デモを実施。












ショップ探訪

ボートセンター 二色の浜

BOAT CENTER NISHIKINOHAMA

株式会社シートレイドプロデュース
〒597-0062 大阪府貝塚市沢334-1
TEL:072-438-9822　FAX:072-438-9823
https://www.boatcenter.jp

40年の経験と信頼を礎に、海の楽しさを次代へ

大阪湾を舞台に、ボート販売から艤装、整備、操船指導、釣りやクルージングの提案まで、長年にわたりオーナーのマリンライフを支えてきたボートセンター二色の浜。その中心にいるのが、ボート業界で約40年の経験を持つ畑谷社長である。若くしてこの世界へ入り、時代と市場の変化を肌で感じながら、トヨタマリンとともに歩みを重ねてきた。自ら乗り、確かめ、心から良いと思えるボートだけを届ける。その一貫した姿勢の奥には販売だけでは終わらない、オーナーへの強い責任感がある。

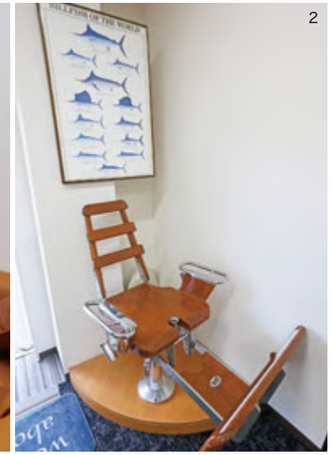


兵庫県西宮市にある新西宮ヨットハーバーの陸上ヤードにはボートセンター二色の浜がこれまで販売してきたPONAM-31が複数保管されている。

ボートと向き合い、トヨタマリンと歩んだ日々

畑谷社長がマリン業界に足を踏み入れたのは高校卒業後。最初は営業として経験を積み、折しも世の中はバブル景気へと向かう時代。国産艇から輸入艇まで様々なボートを扱い、若いうちから数多くの商談と納艇を経験したという。「若いのに意外とよく売る。」と周囲から見られるほど営業の現場で力を発揮する一方、販売だけでなく、ボートそのものに関する知識や操船技術も身につけていった。20代半ばで勤務していた会社を離れた後は個人でボートの仲介や販売を開始。やがて二色の浜に近い場所で敷地を借り、中古艇の展示販売を本格化させた。トヨタマリンとの関係が始まったのはウェイクボードが大きな盛り上がりを見せていた時代。1999年に登場したEPICの初期艇を販売したことをきっかけに、PONAM-26やPONAM-28シリーズをはじめ、PONAM-35からPONAM-31など、歴代モデルを多数販売してきた。販売当初、関西エリアでトヨタマリンのボートを広げていく道のりは必ずしも順調なことばかりではなかった。それでも畑谷社長には「一度始めたことを途中でやめたくない。」という強い想いがあった。「販売店になった以上、途中でやめることはしたくなかった。トヨタという看板を信用して、続けてきた。今は本当に良かったと思っている。」長い年月の中で、試乗会を積極的に開催するなど、多くの人に実際の乗り心地を体験してもらう取り組みを続けたことで、トヨタマリンの認知と評価も高まっていった。


1


2


3


4

1. 今年新西宮ヨットハーバー内に新たな事務所をオープン。室内には商談エリアも設けられ、ボート購入はもちろん、艤装やメンテナンスまで、幅広く海遊びの提案をしてくれる。2. オフィスにはファイティングチェアも展示。畑谷社長は若い頃からカジキ釣りの大会にも出場するなど、トローリング経験も豊富。毎年串本で行われる大会にも初期から参加しており、その経験を頼りにボートを購入し、カジキ釣りを始めたオーナーも多い。3. 自らを「心配性」と話す畑谷社長。初めて海へ出るオーナーには出航前に電話を入れることもあるという。40年の経験の中で、オーナーとの信頼関係を何よりも大切にしている。4. 新西宮ヨットハーバーにも商品艇を展示している。これまでに多数の販売実績があり、年間を通じて、長年付き合ってきたオーナーからの乗り換え相談が絶えないという。

自ら海を走って確かめたPONAMへの確かな信頼

これまでに数多くのボートを扱い、自らステアリングを握ってきた畑谷社長が、とりわけ高く評価するのがPONAM-31である。走行性能や凌波性はもちろん、長距離を走った際の疲労の少なさ、トヨタ製エンジンの信頼性など、その評価は実体験に基づいている。大阪から九州、関東方面まで、納艇のために自ら回航した経験も少なくない。さまざまな海況のなかで感じた乗り心地や安心感はカタログの数値だけでは分からない、実際に海を走った者だからこそ伝えられる情報である。ブランドだけを見るのではなく、自ら乗り、性能や使い勝手まで確かめ、納得したうえでオーナーに勧める。約40年に及ぶ経験が、その判断を支えている。

「自分が良いと思った船だけを売る」オーナーとの信頼関係を繋ぐ責任感

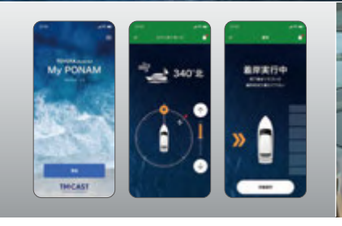
畑谷社長の販売に対する考え方は明快である。「40年間やってきて、自分が乗って良かった船しか、あまり売らないようにしている。」オーナーから希望されたボートであっても、自分が責任を持って勧められないと判断すれば、無理に販売することはない。それは販売の機会を優先するのではなく、購入後のオーナーとの信頼関係を大切にしているからこそ。その姿勢は畑谷社長が自ら「海で遊ぶ時の先生」と語る言葉にも表れている。艇を販売した後は進水式に立ち会い、操船方法を教え、ときには一緒に食事をしながら交流を深めてきた。釣りを始めたいオーナーにはカジキ釣りをはじめとする自らの経験を伝え、クルージングでは大阪湾から淡路島、小豆島、瀬戸内方面まで、それぞれの楽しみ方を提案してきた。単に予算に合った艇を紹介するだけでなく、「その艇で何をして楽しむのか」まで伝えられることが、ボートセンター二色の浜の大きな強みである。トヨタマリンとともに歩み、数多くのPONAMを海へ送り出してきた畑谷社長。40年間で培った経験は単なる知識や販売艇数だけでは語れない。時代が変わり、ボートの性能や操船技術が進化しても、畑谷社長が大切にしているものは変わらない。ボートを通して人とつながり、海の楽しさを伝え続ける。その変わらぬ想いが、これからも多くのオーナーのマリンライフを支えていく。



取材協力　**新西宮ヨットハーバー**　〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜4-16-1　TEL:0798-33-0651

海と心が豊かに結ばれると、人はもっと幸せになれる。







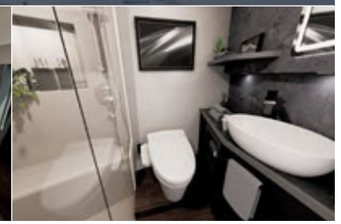
PONAM-31ⅡはPONAM-31シリーズが培ってきた走行性能と使い勝手をさらに磨き上げたモデルである。フライブリッジでは足元空間を拡張したヘルムステーションや収納ボックスを新設し、使い勝手を向上。サロンでは可変式のナビゲーターシートやベッド展開が可能なサロンソファを採用するなど、過ごし方に応じて柔軟に使える空間へと進化している。さらに、オプションではスマートフォンやApple Watchから操作できる「スマホ操船」の機能を備え、より快適な操船も可能としている。また、動力面ではカーボンニュートラル燃料にも対応する次世代エンジンを搭載。小排気量・軽量化を図りながら高出力を実現するなど、性能と環境への配慮を両立している。

PONAM-31Ⅱ	
全長／全幅	10.57m／3.20m
エンジン型式(ディーゼル)	M1GD-VH
排気量	2,982cc × 2基
最高出力	184kW(250PS) × 2基
使用燃料	軽油
ハル	アルミ合金製
燃料タンク容量	620リットル
清水タンク容量	110リットル
定員	12名（フライブリッジ 5名）
航行区域	沿岸

詳細はこちら







PONAM-35svは外洋での本格的な釣りにも対応できる優れたフィッシング機能に加え、居住性能の高いラグジュアリーなサロンを兼ね備えたプレミアムクルーザー。次世代のトヨタハイブリッドハルは高強度FRP、カーボン繊維、アルミ合金の異なる特徴を持つ素材を最適に配置させる新たな工法で、軽量化と高剛性化を両立。開放感溢れるサロンにはウッド調のフローリングを設置し、カラーリングを一新することで、モダンさの中に和を感じられる心地よい空間を演出。パウダールームはシャワールームとトイレ空間を分離することで、使いたくなる清潔な空間を実現。また、風や潮流の影響を軽減し、直感的なジョイスティック操作を実現する次世代の操船支援システムTDA+（トヨタドライブアシストプラス）を導入（オプション設定）している。※TDA、TVAS、TDSは標準装備。

PONAM-35sv	
全長／全幅	11.95m／3.94m
エンジン型式(ディーゼル)	M1VD-VH
排気量	4,461cc × 2基
最高出力	272kW(370PS) × 2基
使用燃料	軽油
ハル	トヨタ ハイブリッド ハル
燃料タンク容量	1,000リットル
清水タンク容量	170リットル
定員	12名（フライブリッジ 5名）
航行区域	沿海

詳細はこちら







PONAM-31は「スピード」「乗り心地」「居住性」のすべてにこだわった設計により、「走りの楽しさ」を体感できるスポーツユーティリティークルーザーとして高い評価を得ている。走行時には優れたスピードと安定感を両立し、スポーティーなクルージングフィールを存分に味わえる点が特徴。「Xグレード」ではネイビーカラーをアクセントにしたレザー調インテリアを採用し、ソファやテーブルの高さを抑えることで、開放感のあるサロン空間を演出。オプションで安心かつ正確な離着岸を支援するTDSに加え、次世代操船支援システムTDA+の搭載にも対応し、操船時の負担軽減に寄与する。

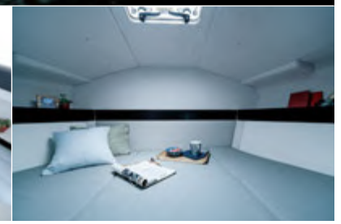
生産終了 ※詳細はお近くのトヨタマリン販売店にお問い合わせください。

PONAM-31	
全長／全幅	10.57m／3.20m
エンジン型式(ディーゼル)	M1KD-VH
排気量	2,982cc × 2基
最高出力	191kW(260PS) × 2基
使用燃料	軽油
ハル	アルミ合金製
燃料タンク容量	620リットル
清水タンク容量	110リットル
定員	12名（フライブリッジ 5名）
航行区域	沿岸

詳細はこちら







PONAM-28VはFRP、アルミ材、カーボン繊維の3種類をバランス良く使用したトヨタハイブリッドハルを採用し、従来のアルミハルに比べ、同等以上の剛性感と凌波性を実現するだけでなく、船体重量の軽量化にも成功している。さらに、1基掛けエンジンでは世界初となる1軸TVASには作動中の充電機能を追加しており、使用時間が従来の約2倍に延長されたことで、これまで以上に長時間のフィッシングにも対応可能となった。船体のデザインはカーデザインで採用される複雑な3D曲面により、立体的なフォルムと曲線美を追求し、美しいデザインを実現。他にも、キャビン内には自動車で培った技術を応用した除湿機能付きマリンエアコンを搭載している。

生産終了 ※詳細はお近くのトヨタマリン販売店にお問い合わせください。

PONAM-28V	
全長／全幅	9.14m／3.16m
エンジン型式(ディーゼル)	M1KD-VH
排気量	2,982cc × 1基
最高出力	191kW(260PS) × 1基
使用燃料	軽油
ハル	トヨタ ハイブリッド ハル
燃料タンク容量	330リットル
清水タンク容量	56リットル
定員	12名
航行区域	平水、限定沿海、沿岸

詳細はこちら

※掲載内容は2026年11月現在のものです。 ※写真には撮影用小物、オプションパーツ等を含む事があります。

LEXUS

LY680









LY680はラグジュアリーライフスタイルブランドとしてのLEXUSが、その思想を海の領域へと拡張するフラッグシップモデル。「海の真ん中で、本物を知る人が素の自分に戻れる、隠れ家のような空間」をコンセプトに、LEXUSのデザインフィロソフィーであるL-finesseを具現化したエクステリアと、細部までつくり込んだ快適で贅沢な空間を実現。パフォーマンス面ではLEXUSが追求する「すっきりと奥深い」航走性能を目指し、安定した操縦性と上質な乗り心地、そして高い静粛性を実現。フライブリッジにはゆったりと寛げる広いラウンジソファを採用。海と風を感じながら、極上の時間を楽しめる。

全長	20.66m
全幅	5.76m
エンジン	Twin Volvo Penta IPS 1350/1050
最高出力	1,000PS × 2基／800PS × 2基
燃料タンク容量	4,012リットル
使用燃料	軽油
清水タンク容量	852リットル
定員	12＋3 名

詳細はこちら

※掲載内容は2026年11月現在のものです。 ※写真には撮影用小物、オプションパーツ等を含む事があります。



TOYOTA MARINE Ocean Style

■ **発行人** トヨタ自動車株式会社 ■ **編集長** 釜谷 駿（マリン事業部）
■ **フォトグラファー** 福地 和男 ／ 石川 三紘 ／ 石川 雄基 ■ **ライター** 中田 雅博 ／ 石川 雄基 ／ 神谷 仁
■ **デザイン・レイアウト** 野口 浩司 ／ 加藤 憲明 ■ **企画・製作** M's PLANNING inc.

TOYOTA MARINE × muta MARINE



まえ うしろ

コラボポロシャツプレゼント

アンケートにお答え頂いた方の中から
抽選で3名様に
TOYOTA MARINE × muta MARINE
コラボポロシャツをプレゼントいたします。

応募締切：2027年1月31日（日）まで

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせて頂きます。

アンケートに回答する
所要時間：約4分

※ご回答頂きましたアンケート内容に関しましては、今後の編集・企画立案の際に参考にさせて頂きます。また、ご入力頂きました個人情報については読者プレゼント発送のほか、当社が個人の内容を特定できないような統計的な資料を作成する際に利用させて頂く場合もございます。個人情報に関しましては当社にて厳重に管理し、この目的以外で許可なく第三者への提供はいたしません。



OTG MARINE

PRODUCED BY OSAKA TOYOPET GROUP

OTG MARINE OFFICE 〒659-0035 兵庫県芦屋市海洋町11-3 TEL:0797-35-7373

TOYOTA MARINE





※写真には撮影用小物、オプションパーツ等を含むことがあります。

Beyond Together

永遠を湛える海に浮かぶ、疾走する、仲間や家族と過ごすひととき。そんなかけがえのない時間を、より豊かにするマルチパーパスクルーザー。
初心者でも扱いやすい安定性と、上級者も満足させる高い操船性能。そして、環境への配慮と快適性を両立した上質なインテリア。
仲間と、海と、ともに未来へ進む歓びが、この一艇には確かに息づいている。

Sport Utility Cruiser PONAM-31//

詳しくは、お近くのトヨタボート販売店、またはフリーダイヤルへお問い合わせください。
トヨタ自動車株式会社 マリン営業所 0120-532-451 www.toyota.co.jp/marine/

トヨタマリン刊行のマリンライフが楽しくなる情報をまとめた季刊誌「Ocean Style」

海での感動とマリンライフを素敵に広げるNTP2つのマリーナ

ntp Marine

ntp マリーナりんくう

中部圏トップクラスのサービスセンターは、
大型艇の修理、メンテナンスからカスタムまで対応。
お気軽にご相談ください!!



〒479-0882　愛知県常滑市りんくう町3-6-1
TEL.0569-35-7200
www.ntp.co.jp/marina/rinku

りんくう・とこなめ海の駅

















ntp マリーナ高浜

名古屋中心部から車で45分。
家族や気の合う仲間たちと
のんびり快適なマリーナライフを。
レンタルボートクラブ、ボート免許スクールも実施!!

〒444-1325　愛知県高浜市青木町1-1
TEL.0566-54-5300
www.ntp.co.jp/marina/takahama

たかはま海の駅





check!

新規艇置 契約募集中!

年間保管料の一例

例 りんくう 45フィートの場合

年間保管料(海上:B桟橋)(税込み)
※特約付 1,776,500円/年

年間保管料(海上:B桟橋)
※特約なし 2,090,000円/年

例 たかはま 35フィートの場合

年間保管料(海上:B桟橋)(税込み)
726,000円/年

年間保管料(陸上)
1フィート 11,000円/年

※船台料金別途。※陸上保管は実測長にて算出。※上記料金はあくまでも参考です。艤装によって変更あり。

Fun
◎上記以外に各入会諸経費が必要となりますので、
詳しくはスタッフまでお気軽にお問い合わせ下さい。

特選商品艇多数あり!詳細等NTPマリンプラザ
ショールームページをご覧ください!!

ntp マリンクラブ

会員募集中!

オーナー感覚でマリンライフを楽しむ!レンタルボートクラブの
ワンランク上のステータスを追求した会員制クラブ
ntp マリンクラブ事務局
☎0569-35-7820

ntp ボートライセンススクール

受講生募集中! 抜群の合格率!

1級、2級、特殊小型(水上オートバイ専用)の3コースをご用意。
一例(2級) ¥98,000(税込)
ntp ボートライセンススクール事務局
☎0566-54-5301

ntp レンタルボートクラブ

会員募集中!

いつでも、乗りたくなったらレンタルボート!ボート免許取得者で
18才以上の方ならどなたでも入会可能な会員制クラブ
ntp レンタルボートクラブ事務局
☎0566-54-5300

MARINE SERVICE



マリンサービス

NTPマリンサービスセンターは、様々な艤装対応、船体修理を始め、オリジナルパーツからカスタマイズまで、高い技術力と内製体制でオーナー様のご要望にお応えします。

NTP MARINE SERVICE CENTER

船体修理
塗装 コーティング
カスタマイズ
エンジン 制御系 駆動系
艤 装
オリジナル パーツ作製

名古屋方面からの
アクセス良好!

goodday



ntp Marine ntp 名古屋トヨペット マリン営業部
〒479-0882 愛知県常滑市りんくう町3-6-1　マリーナりんくうマリンプラザ内
TEL: 0569-35-7820　E-mail: marine@ntp-g.com　ハーバースタッフ募集中

マリンメルマガ会員募集中!
NTPマリンの最新情報を好評配信中!

免許申込みがスマホから簡単に!

デジタルパンフレット完成!

muta
MARINE

A style without compromise for a more
beautiful and creative life



↑LINE 登録で最新情報をチェック！

www.muta-japan.com

muta JAPAN co.,ltd
Copyright© 2015-2026
muta MARINE ALL Rights Reserved.

Official Store location

【ONLINE STORE】www.muta-japan.com【muta TOKYO JAPAN】03-6721-0348【MARINE TOKYO】03-5770-4498【GOLF PALAZZO】03-5220-4498【GOLF NIHONBASHITAKASHIMAYA】03-6281-8380【GOLF SHINJUKU TAKASHIMAYA】03-5990-2888
【MARINE ZUSHI & BMC CAFE】0467-39-5589【MARINE YOKOHAMA】045-319-4682【MARINE SENDAI】022-281-9658【MARINE MAEBASHI】027-212-5628 ※2026 / 11 / 3 GRAND OPEN【muta SALONE】052-265-8852
【GOLF the MODA】052-777-7373【MARINE RINKU & WAKESURF SCHOOL】0569-38-1266【GOLF NAGOYA MATSUZAKAYA】052-264-2798【GOLF JR NAGOYA TAKASHIMAYA】052-566-3874【GLOBALE KANAZAWA】076-264-8881
【MARINE BIWAKO】0775-36-6445【MARINE KYOTO】075-223-5530【GOLF KYOTO TAKASHIMAYA】075-252-7964【MARINE OSAKA】06-6484-6134【GOLF OSAKA】06-6224-0855【KIDS OSAKA】06-4256-2955
【GOLF OSAKA DAIMARU SHINSAIBASHI】06-6252-5001【GOLF OSAKA TAKASHIMAYA】06-6632-9874【GLOBALE KOBE】078-232-3988【MARINE HIROSHIMA】082-247-6660【KIDS HIROSHIMA】082-567-4383【GLOBALE OKAYAMA】086-230-4580
【MARINE MATSUYAMA】089-933-8150【MARINE FUKUOKA】092-723-0018【GOLF IWATAYA HONTEN】092-713-0018【MARINE OKINAWA】098-988-7088【MARINE OKINAWA COLLINA DEL MARE】098-989-8626



バッテリーEV

RZ

Photo：RZ550e“F SPORT”。ボディカラーはブラック&ニュートリノグレー〈M48〉